

1. 基本方針

「一人ひとりに役割と居場所があるまちづくり」を戦略の根底に据えつつ、次の4点の切り口に重点を置いて、「幸福度の高いまち＝日本一の福祉のまち」を目指し、市民総動員で取り組むための仕組みづくりを進めます。

役割・しごとづくり

地域での役割を通して、地域に根差し、地域を愛し、まちづくりに主体的に取り組む「人づくり」につなげていきます。

地域コミュニティ・地域福祉

健康づくりを推進するとともに、顔が見える「新しいコミュニティ」を構築し、市民が互いに助け合い、支え合う関係をつくっていくことが必要です。

子育て支援

妊娠から出産、子育てまでの切れ目のない支援や、地域で子育て世帯を支援していく仕組みが必要です。

観光交流

本市独自の地域資源を活かして、まちの魅力を高め、市内外との交流を促進し、賑わいを創出することが重要です。

2. 基本目標と数値目標・基本的方向

基本目標1 役割・しごとづくり 「誰もが活躍できる役割・しごとをつくる」

<数値目標>

市民一人ひとりが、「役割」と「居場所」を持ち、誰もが「必要とされている」ことが実感できる幸福度の高いまちを目指し、地域で活躍できる体制や仕組み作りを推進します。

数値目標	基準値	目標値
地域で「たつせがある」*と思う人の割合	20.1% (概ね5人に1人の割合) 2014(平成26)年	50% (概ね2人に1人の割合) 2019(平成31)年

*「たつせがある」とは、「立つ瀬がない」の対義語で、「だれもが役割を担い、活躍し、必要とされ、生きがいを持って楽しく過ごすことができる」ことを表した長久手市の造語です。

<基本的方向>

- ア 市民の力を活かした新しい役割分担の仕組みをつくる
- イ 「農ある暮らし」で好循環をつくる
- ウ 雇用の創出で地域を活性化させる

基本目標3 地域コミュニティ・地域福祉 「地域のつながりを構築し、元気に安心して暮らせるまちをつくる」

<数値目標>

市民が自ら地域の課題を解決する力を身につけ、さらにはコミュニティの活性化を図ることにより、市民同士の生活支援につながる取組を進めます。

数値目標	基準値	目標値
地域活動や行事にスタッフとして参加したことがある人の割合	20.2% (概ね5人に1人の割合) 2014(平成26)年	50% (概ね2人に1人の割合) 2019(平成31)年
健康寿命	男性 79.7歳 女性 83.5歳 2014(平成26)年	延伸 2019(平成31)年

<基本的方向>

- ア 市民が支え合うコミュニティをつくる
- イ 市民の健康寿命を延ばす

基本目標2 子育て支援 「子どもを通して家族と地域の輪が広がるまちをつくる」

<数値目標>

保育サービスや教育環境の充実を進めるとともに、身近な地域で支え合う多様な視点に立った子育てしやすいまちづくりを進めます。

数値目標	基準値	目標値
合計特殊出生率	1.55 2012(平成24)年	1.6 2019(平成31)年
安心して子どもを産み、育てることができるまちだと思う人の割合	50.8% (概ね2人に1人の割合) 2014(平成26)年	65% (概ね3人に2人の割合) 2019(平成31)年

<基本的方向>

- ア 妊娠から出産、育児への切れ目のない支援
- イ 地域で支え合う子育て支援

基本目標4 観光交流 「地域の魅力を活かし、賑わい・活気・交流をつくる」

<数値目標>

本市の観光資源を活かし、市民が快適に楽しく暮らし、自らが住む地域に誇りを持ち、市民と来訪者が心豊かに交流する居心地の良いまちづくりを進めます。

数値目標	基準値	目標値
観光交流者数	約320万人 2013(平成25)年	約350万人 2019(平成31)年
地域における自慢すべき「宝」があると思う人の割合	26.6% (概ね4人に1人の割合) 2014(平成26)年	50% (概ね2人に1人の割合) 2019(平成31)年

<基本的方向>

- ア 地域資源を活かした長久手の魅力とオリジナリティを創造・発信する
- イ 人が集まり情報の受発信が行われる交流の場の創造

3. 「人口ビジョンに基づく市の特徴」と「総合戦略」との関係

人口ビジョンに基づく市の特徴

①社会増と自然増がともに著しい

本市は、名古屋市に隣接し、土地区画整理事業や宅地開発によって比較的若い世帯が多く転入し、子どもを産んでいることなどから、社会増と自然増がともに全国上位にランクされている。

②2040（平成52）年頃から高齢化に伴う問題が顕在化

比較的若い核家族や大学生による転入が多く、団塊ジュニアの世代（40歳代）も多いため、現在は高齢者の少ない人口構成となっているものの、2040（平成52）年頃からこうした人たちが高齢者となり始め、介護にかかる負担等の問題が起きてくる。高齢者が健康であり続け、活躍できる場づくりが必要である。

③合計特殊出生率の上昇傾向

近年、本市の合計特殊出生率は上昇しているが、この傾向を維持するため、妊娠から出産、子育てまでの切れ目のない支援が必要である。

④子どもを預けられる人が身近に少ない

転入が多く、3世代同居の世帯割合も低いことから、子どもを預けられる人が身近に少ない状況にあり、今後、地域で子育て世帯を支援していく仕組みが求められる。

⑤学生が卒業後に転出

市内及び周辺大学の学生が、本市から通勤できない勤務地に就職する男性が多いことなどから、最近では特に25歳前後の男性による転出が著しい。本市の魅力向上させることで、学生が卒業後も住み続けるよう促すことが期待される。

⑥第3次産業就業者の割合が高い

名古屋都市圏などを主な勤務先として卸売業や小売業、各種サービス業などに従事している人が多いため、産業別就業者の構成は第3次産業が77.4%を占め、国や県よりも高い。

長久手市まち・ひと・しごと創生総合戦略の全体像

一人ひとりに役割と居場所があるまちなび

基本目標

役割・しごとづくり

誰もが活躍できる
役割・しごとをつくる

子育て支援

子どもを通して家族と
地域の輪が広がる
まちをつくる

地域コミュニティ・
地域福祉

地域のつながりを構築し、
元気に安心して暮らせる
まちをつくる

観光交流

地域の魅力を活かし、
賑わい・活気・交流
をつくる

基本的方向

ア 市民の力を活かした新しい
役割分担の仕組みをつくる

イ 「農ある暮らし」で
好循環をつくる

ウ 雇用の創出で地域を
活性化させる

ア 妊娠から出産、育児への
切れ目のない支援

イ 地域で支え合う子育て
支援

ア 市民が支え合う
コミュニティをつくる

イ 市民の
健康寿命を延ばす

ア 地域資源を活かした
長久手の魅力とオリジナ
リティを創造・発信する

イ 人が集まり情報の受発信が
行われる交流の場の創造

施策・事業

ながくて地域スマイルポイント事業
市民総動員のまちの計画づくりプロジェクト
ながくて市民大学「いきいき！エルダー塾」 《3事業》

まちなか農縁支援事業
長久手アグリサポートセンター事業
農福連携支援事業（就労支援事業）
田園ハレー交流施設（あぐりん村）再整備事業 《4事業》

創業支援事業
住民起業支援塾
インターンシップバンク制度事業 《3事業》

産前産後ヘルパー派遣事業
出産祝い事業（木のおもちゃ等の支給）
子育てコンシェルジュ設置事業
休日保育の実施
産後健康診査事業 《5事業》

保育園、児童館等での地域交流事業（「保育園おたすけたい」事業）
地域学校サポート事業
子どもチャレンジ事業（子どもの夢サポート事業）
土曜日学習サポート事業
放課後子ども教室の拡充 《5事業》

小さな拠点形成事業（まちづくり協議会設立と交流拠点整備）
市民と職員による市民協働プロジェクト
コミュニティ・ソーシャルワーカー配置事業
子ども防火活動事業 《4事業》

健康チャレンジャー事業（健康マイレージ）
若者の生活習慣病予防事業（39歳以下健診）
地域保健活動の充実 《3事業》

シティプロモーション事業
ながくてアートフェスティバル
大学連携提案事業助成金事業
長久手版「プレーパーク」事業 《4事業》

リモテラス整備事業
まちセンカフェ（まちづくりセンターを拠点とした市民団体による交流促進事業） 《2事業》

総合戦略の推進体制

総合戦略においては、P D C A サイクルを構築し効果的に推進します。基本目標ごとに数値目標を掲げ、総合戦略の進捗状況を施策ごとに設定された重要業績評価指標（K P I）※をもって検証する機関を設置し、検証結果を踏まえて施策を見直すとともに、必要に応じて総合戦略を改訂します。

なお、検証機関の構成員については、推進会議の委員を基本とし、必要に応じて新たな委員を追加して体制を整えます。

※重要業績評価指標とは、目標の達成度合いを計るための定量的な指標のこと。
Key Performance Indicators の略称。

Plan

数値目標・客観的な指標を設定した効果的な総合戦略を策定する。

Do

総合戦略に基づく施策を実施する。

Check

数値目標や客観的指標の達成度を通じて、効果を検証する。

Action

検証結果を踏まえて、必要に応じて総合戦略を見直す。

